

よこがお
組合員紹介

大畑 一郎さん

北札幌地区



丘珠・篠路で早生たまねぎを作付け

たまねぎ栽培発祥の地である札幌市東区。年々都市化が進む市内の中でも丘珠空港の東側一帯には、今もなお広大なたまねぎ畑が広がっている。

北札幌地区組合員の大畑 一郎さんは、丘珠と篠路の畑でたまねぎを作付けする。丘珠空港の滑走路と目と鼻の先にある畑では、今年最後に移植したたまねぎの苗が少しずつ成長を始めていた。

「一般的にたまねぎは、連作障害は少ないと言われますが、最近作付けを始めた新しい畑の方が生育が良い気がします。丘珠と篠路の畑を併せて約7ヘクタール。作っているのは全て早生のオホーツク222という品種です。出荷量は年間400トンくらいですね」

たまねぎは、1アール5トンが収量の目安と言われている。オホーツク222は、長玉縦長のたまねぎで、規格外になるものも少なく、安定した形と大きさと収穫でき、病気にも比較的強いという。以前は晩生品種も作付けしていたものの、近年、札幌も多雨など本州寄りの気候になっていることなどを踏まえ、早生のみで作付けに移行したそうだ。

「たまねぎは、基本的に寒い方が好きな野菜。猛暑や雨が続くのは、悩みの種です。有機肥料を使うなど、こだわりはありますが、特別なものを作ろうとは思っていません。品質が良く安心して食べられる、色々な人が手に取れるたまねぎを作りたいと思っています」

代々続く農家を受け継ぐ

大畑さんが農業を始めたのは、大学を卒業してすぐのこと。一度会社勤めをし、数年後に農家